

さがみはら生物多様性ネットワークは、生物多様性を将来にわたり保全するための取組を実施し、人と自然が共生する社会の実現を目指しています。生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのことです。地球上の生きものは全て直接また間接的に支えあって生きています。

さがみはら生物多様性 ネットワーク ニュース

発行 さがみはら生物多様性ネットワーク



第12号

発行日
2020年3月

さがみはら生物多様性ネットワーク 会員を募集しています

さがみはら生物多様性ネットワークは、市民、団体、事業者、行政など
様々な立場の人たちがともにつながり合い、
協力しながら生物多様性を守り、自然の恵みを将来にわたり
享受する社会を実現するために活動している団体です。

主な 活動

会報紙などを 活用した情報発信

生物多様性に関する情報や、会員の取組について
掲載した広報紙を発行しています。

読んでね



イベントへの参加

今年度からの新たな取り組みとして、イベントへ
参加し、生物多様性及びネットワークの活動について
PRを行っています。今年度は若葉まつりにブース
を出展しました。



生物多様性 シンポジウムの開催

有識者による講演と環境団体等による活動事例発
表を通して、生物多様性の普及・啓発を図っています。



会員同士による情報交流

会員の活動地の視察等を実施し、会員同士による
交流会により、情報共有・情報交換を行っています。



お問い合わせは、裏面のさがみはら生物多様性ネットワーク事務局までお願いします。



生きものがつくる「土」—土のビッグヒストリー

片山博文 (桜美林大学教授)

私は毎年秋学期に、桜美林大学リベラルアーツ学群で「自然理解(ビッグヒストリー)」という授業をしています。ビッグヒストリーとは、138億年の地球宇宙史を振り返ることにより、宇宙に人間が存在する意味を考え、生物多様性や温暖化の問題に取り組んでいこうというものです。

昨年11月1日、森林総合研究所の藤井一至先生をお招きして、「土のビッグヒストリー」というテーマでゲスト講義をしていただきました。藤井先生は、『大地の五億年』(ヤマケイ新書)や『土 地球最後のナゾ』(光文社新書)の著作で知られる、著名な若手の土壌研究者です。

みなさんは、「土」って何だと思いませんか？ 単なる砂や粘土は「土」ではありません。藤井先生によれば、「土」とは、「岩が分解したものと、死んだ植物が混ざったもの」をいいます。つまり、生きものの死骸が混ざって初めて「土」となるのです。そのため、月や火星には砂や粘土はありますが、「土」はありません。そして、地球にも昔は土がありませんでした。地球が誕生したのは約46億年前

ですが、土が誕生したのは5億年前といわれています。そのころ地衣類とコケ類が生まれて岩を砕きはじめ、4～3億年前にシダ植物や裸子植物が登場し、そして2億年前から分解者としてキノコが進化することにより、現在の土ができました。

あのありふれた土が、じつは5億年もかけてできたものだから、すごく不思議な気持ちになりませんか？

それから藤井先生は、土壌の分解者としてミミズが重要であること、世界にはさまざまな種類の土があること、肥沃な土が地球には限られた地域にしかないため、昔から国際的な紛争の原因になってきたこと、日本には豊かな土と水があることなど、「土」とそれを作る生きものが私たちの生活の根本であることを、ユーモアたっぷりに分かりやすく説明してくださいました。

土って、本当に大事なんですね。みなさんも、身近な土にぜひ注目してみてください！



著書 『大地の五億年』 『土 地球最後のナゾ』
藤井一至

会員募集中!! 入会随時

さがみはら生物多様性ネットワークに入会して、生物多様性の保全と一緒に取り組みませんか。ネットワークの趣旨に賛同する個人・団体・事業者で活動に積極的に参加していただける方であれば、どなたでも入会できます。

相模原市 生物多様性

検索



年会費…1口1,000円

個人・団体会員 / 1口以上
事業者会員 / 2口以上

発行者：さがみはら生物多様性ネットワーク事務局
(相模原市水みどり環境課内)

住所：相模原市中央区中央2-11-15

電話：042-769-8242

Eメール：midori@city.sagamihara.kanagawa.jp